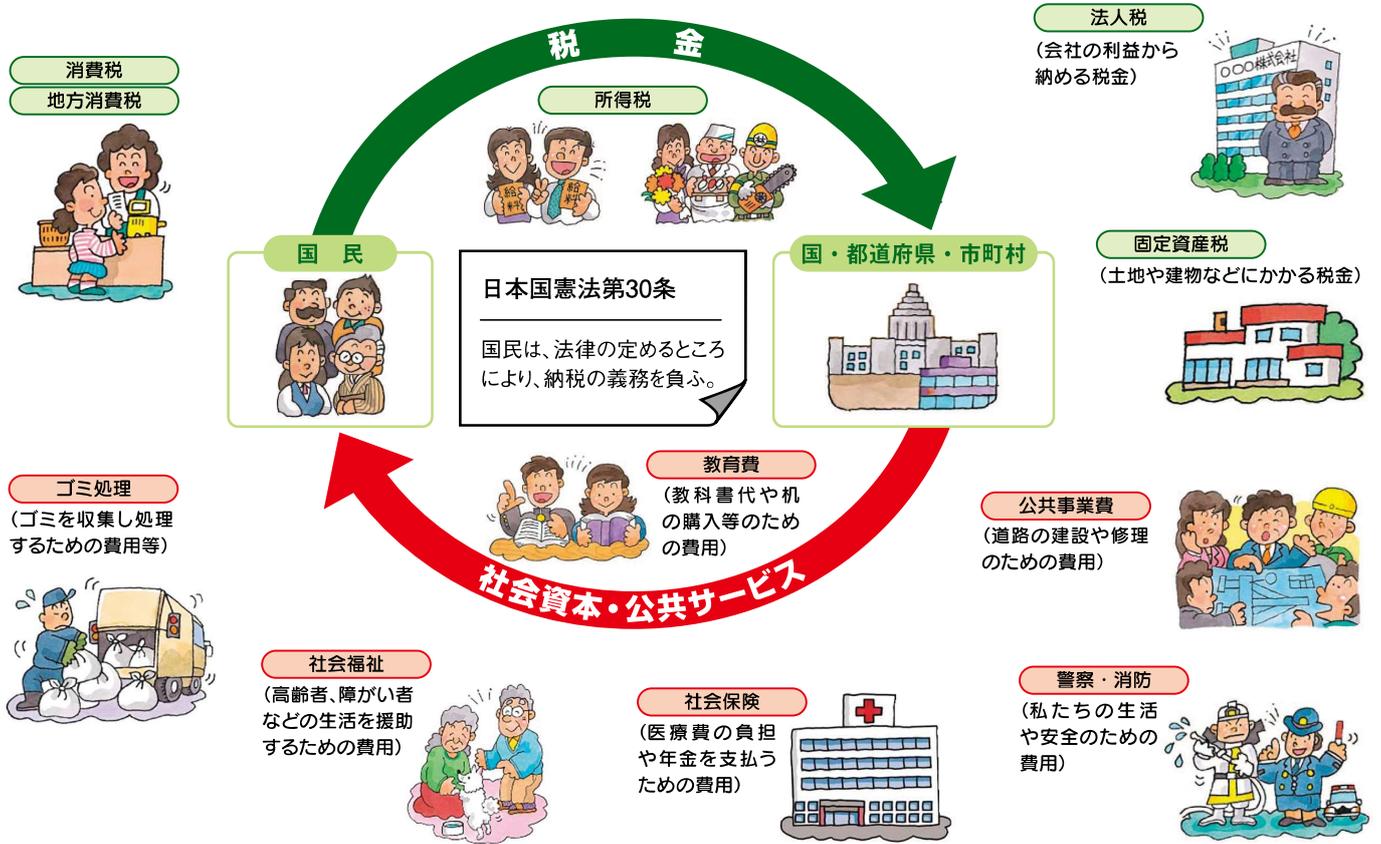


1 税金は、なぜ必要？

●東京書籍 P164~165
 ●教育出版 P158~159
 ●帝国書院 P156~157
 ●日本文教出版 P172~173

国や地方公共団体(都道府県、市町村)は、私たちが健康で豊かな暮らしができるように、民間企業では供給されにくい「公共サービス」や「社会資本(公共施設)」の提供など、社会を支えるさまざまな活動を行っています。その活動のための費用をまかなっているのが、私たちの「税金」です。税金は私たちが生活していくための、いわば「会費」といえます。



警察官の消えた町

税金が足りなくなったために、公共サービスが大幅に削減された例が実際にあります。

アメリカ合衆国のある州で、「税金は安いほうがいい」という意見が多数となり、税金を安くする法律ができました。

その結果、公共サービスを提供するためのお金が足りなくなり、公務員の給料を払うことができず、大量の警察官を解雇せざるをえなくなりました。他にも、道路がガタガタになる、教育費が減らされる、公園が有料になるなどさまざまな問題が起こりました。

その後、「警察官がない町は困る」として住民投票が行われ、税金を安くする法律は廃止となりました。

みなさんの通う学校、利用する公園や図書館、頼りになる警察官や消防士。もしも税金がなくなったら…これらは当たり前のものではなくなるのです。



～税金はなぜ必要か、考えてみよう～